【背景・目的】近年，化学療法や放射線療法時に口腔粘膜炎が生じ，原疾患以外の主要なQOL 低下要因となっていることが問題視されている．周術期合併症としての口腔粘膜炎の発症と口腔カンジダの関連にはいまだ不明な点が多い．口腔粘膜炎の発症と口腔カンジダの関連を検討するため，岩手医科大学附属病院で周術期口腔管理を受けた者の検査・診療記録を分析した．蓄積された臨床データから，口腔粘膜炎の発症ならびに重篤度と口腔カンジダの保菌状態との関連について検討した．その結果，カンジダの有無と保有量の両方が周術期の口腔粘膜炎に関連していることが示唆された．
【対象および方法】平成 24 年 4 月から平成 27 年 12 月までに，岩手医科大学附属病院外科から，化学療法開始前の周術期口腔管理を依頼された者 106 名と，平成 30 年 8 月から平成 31 年 3 月までに，口腔ケア外来に周術期口腔管理を依頼された者 23 名とした．研究デザインは，診療録から診療情報を抽出して抽出項目の相互の関連を検討する後ろ向き観察研究を行った．口腔カンジダの検出は舌背擦過試料をクロモアガーカンジダ培地で 37℃ 48 時間培養後，コロニーをカウントした．
【結果】単変量解析では化学療法前に，口腔カンジダを保有していることと，化学療法中の口腔粘膜炎の発症に有意な単相関が認められた．多重ロジスティック回帰分析でその他の要因を投入した多変量解析を行ったところ，カンジダの保有のみが有意な要因だった．また，化学療法開始前に，対数値で 1.0 以上カンジダを保有している者で，カンジダ量と化学療法後の口腔粘膜炎の重篤度に高い相関が認められた．
【考察】カンジダの検出により口腔粘膜炎発症のリスクがある程度推定できることが示された．また化学療法開始前から口腔にある程度の菌量が定着している者では，口腔カンジダは口腔粘膜炎の発症のみならず，重篤度にも影響を及ぼす可能性が示された．

## 一般演題

### 1．Chievitz 器官（Chievitz 傍口腔器官 juxta-oral organ of Chievitz）：本邦で記載の乏しい口腔の組織構築物について

Chievitz organ（juxta-oral organ of Chievitz）：only a few descriptions of oral histologic element in Japan

○武田 泰典，山田 浩之 *

岩手医科大学歯学部口腔顎顔面再建学講座臨床病理学分野，岩手医科大学歯学部口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野 *

Chievitz 器官（CO）は頬粘膜下深部にみられる数 mm から 10mm までの小さな上皮細胞集塊で，1855 年に Chievitz JH が最初に記載した．当初は胎生期に形成され，出生後に退化消失すると考えられたが，その後，出生後も存在することが明らかにされた．CO の検索結果のほとんどは欧文雑誌に掲載されており，本邦ではその存在自体があまり知られていない．演者らは今までに 3 例の CO 例を経験したので，その概要を報告する．3 例とも高齢者の悪性腫瘍例で，下顎骨を含む手術切除検体の軟組織内に CO がみられた．いずれも長円形～紡錘形の上皮小塊で，被膜に囲まれ，近傍には神経線維束が散在していた．また，CO 内外には melanin 含有細胞や melanin 色素沈着をみた．CO によっては中央側の細胞は不規則に，辺縁側の細胞は柵状に配列し，微小な腺腔様構築もみられた．従来の記載と同様に CO は神経線維と密接な関係があると思われたが，機能にまで言及できる所見は得られなかった．

### 2．Cadaver Surgical Training における固定液（Thiel 法）の歯科的検証　－予報－

Dental verification of fixative（Thiel method）in Cadaver Surgical Training
－ Preliminary experiment －

○藤村　朗，浅野 明子，工藤 義之，
佐々木 信英 *，藤原 尚樹 *，三浦 廣行